

式 辞

昨夜からの雨や風にも耐え、校庭の百本の桜はまだまだ花を咲かせてくれています。

希望を胸に本日、磯松中学校に入学する177名の新一年生の皆さん、入学おめでとうございます。在校生一同、教職員一同、皆さんの入学を心から歓迎します。

保護者の皆様、地域の皆様とともに、第42回東広島市立磯松中学校の入学式を行うことができますこと、心より感謝申し上げます。

本校は、創立42年めを迎え、6110名の卒業生を送り出してきた、歴史と伝統ある学校です。

生徒玄関の前に、地域の方が美しく整えてくださった季節の花が咲いています。花に囲まれて、ひとつの石碑が置かれています。

そこには、校訓の「思考・実践・敬愛」の文字が刻まれています。

一つめの「思考」、自分の考えをもつことです。「なぜ、学ぶのか」「何のために学ぶのか」「誰のために学ぶのか」、考えることです。先生方や地域の方から多くのことを学んでください。人類の知恵の結晶である本をたくさん読んでください。そして、いつか同じ年代として社会を支えていく先輩や友達とたくさん話してください。そうして自分なりのしっかりとした考えを作っていくてください。

二つめの「実践」、まずはやってみることです。とりわけ、あたり前のことをきちんとやることです。どんな仕事にも通じる「ABCDの心得」というものがあります。2・3年生は知っていますね。「A あたり前のことを B ばかにせず C ちゃんとやれる人こそ D できる人」です。「あたり前」とは何でしょうか。たとえば、あいさつをする、時間を守る、そうじをする、手伝いをする、困っている人を助ける、そして、努力している人間を笑わない、振り返れば、意外と難しいものです。

三つめの「敬愛」、ちがいをみとめ合い、たがいを思いやることです。社会に出れば、人の数だけ違いがあり、考えがあります。同じ人など一人もいないのです。違いがあるから、話し合う意味が生まれ、人はよりよい考えにたどりつけます。違いを乗り越える経験を積み重ね、違いを越えて、人と関わる力を身につけてください。

世界はまだまだ、災害や暴力、ときに戦争が絶えず、また技術や社会も急激に変化し続けています。予測の難しい未来社会にあっても、校訓が示す「思考・実践・敬愛」は、変わることなく、人生をきりひらく力です。

最後に私から、皆さんへメッセージです。

ひとつ問います。人生で、人が生きていく中で、いちばんうれしい時とは、どんな時でしょうか。

それは「自分が成長した。」と感じた時ではないでしょうか。とりわけ中学校の三年間は、「毎日成長しかない時期」です。昨日より今日、今日より明日、できることが増える時期です。ひとつ、漢字を覚えた、一問、方程式が解けた、一回、腕立て伏せが多くできた、ひとつ、友だちのいいところを見つけることができた。

そのためには、遠くを見るだけでなく、まずは目の前の、毎日のことを一生懸命に取り組んでみてください。そうすれば、今、もし皆さんが「夢が見つからない」としても、目の前のことに一生懸命取り組んでいれば、夢のほう皆さんをみつけてくれます。この世界には、あなただけの「イス」があります。毎日の目の前のことに一生懸命取り組んでいれば、必ず、必ずそこにたどりつきます。ともに、充実した中学校生活を送っていきましょう。

保護者の皆様、お子様のご入学、誠にありがとうございます。

私ども教職員一同、本日入学した177名、一人一人に対し、時にやさしく、時に厳しく、しかし深い愛情をもって、教育活動を進めてまいります。そして、その基盤は家庭での生活であり、学校教育で身につけた力を発揮する舞台が地域ともなります。子どもたちの健やかな成長のため、三者で一致団結して取り組んでまいりましょう。

皆様に、本校教育の推進・発展に対しまして、これからも変わらぬご理解・ご支援をお願い致しまして、式辞といたします。



令和6年4月9日

東広島市立磯松中学校

校長 立田 晃